

2022 年度実施概要

学校名

羅臼町立羅臼小学校

採択活動名

知床学（海洋教育）

取り組みの概要

私たちの学校は山・川・海が結びついた大自然、世界自然遺産の知床の中にある。

総合的な学習の時間や生活科の中で「知床学（海洋学）」として自然に関することやふるさと羅臼に関する様々な学習を行ってきた。今年度も、これまでの取組を継承し「知床学（海洋学）」を教科として、各学年で学習している。

具体的な学習として、第1・2学年では、幼稚園からの学びをつなぎ、地域の自然や仕事について活動を通して学んでいる。特に第2学年では漁協・地域住民から鮭の生態や稚魚を放流する意味について説明を受け、3年後の回帰を願い稚魚放流に取り組んだ。また、新しく秋サケの羅臼川回帰の様子をCSコーディネーターからの案内で、体験活動として取り入れることができた。このような体験学習を通じ、児童は鮭の生態について学ぶだけでなく、羅臼の自然の豊かさや地域の方の行動からより「ふるさと羅臼」に対する思いを強くもった。3年後の回帰する鮭の有効活用「鮭フレック作り」を第5学年で実施し学びを繋げている。

第3・4学年では、低学年での学びをもとにして、地域の自然や産業について自ら課題を設定し、地域の方へのインタビューや本・インターネットを活用した調べ学習を行い、課題を解決した。特に第3学年が行う生き物調べの学習では、知床財団職員の方の講話（クマ学習）やインタビューから海や山の羅臼の生き物図鑑を作成した。第4学年では、羅臼川探検の体験活動を通じて、海を豊かにするには川がきれいなことが大切なことに気付き、川の水質検査を行った。本当に自分達の川がきれいなのか比較するため、昨年度から交流のある東京・大阪の学校近くの川の水質を比較実験することも行った。この学びでは、自ら課題を設定し解決する力を伸ばすだけでなく、様々な人との対話を通じてコミュニケーション能力の基礎を育むことができた。また、調べ学習を通じ、羅臼の自然、特に海の豊かさを感じ、よりふるさとの素晴らしさや自然のすばらしさを感じることができた。

第5学年では、羅臼昆布を題材として地域の産業について学ぶ学習を行った。今年度は、伝統となりつつあるこんぶ図鑑作りに加え、コロナの影響で中止になっていた様々な体験活動を感染状況に考慮して、できる限り実施した。特にこんぶ漁師による講話や「こんぶのひれ刈り体験」などふるさと

羅臼でしか体験できない学びを数多く行うことができた。この学習を通じ、地域住民の郷土の産業を大切にしている考えに直接触れて、「羅臼の海のすばらしさを改めて感じた。」「地域の人たちが守ってきた海や産業を自分たちもしっかりと守りたい。」などの感想をもち、郷土に対しての愛着を改めて感じるこ

2年生稚魚放流式



5年生こんぶ漁師によるひれ刈り体験

とができた。

第6学年は、昨年度から始めたSNSの発信による「羅臼の良さをアピールしよう」をテーマに学習を進めた。海を含めた自然の豊かさや地域の魅力ある人・物・自然を再確認し、ふるさとを多角的に捉えて、様々な人々に伝えることを通して学びを深めていった。地域の良さを再確認する活動と同時に、羅臼の環境を守ることに着目し、環境を守る活動としてゴミ拾い活動を自主的に行うことにも学習は広がりを見せた。また、地域の郷土料理を残すことを目的に始まった漁協女性部との共同による「羅臼の郷土料理体験」も行い、地域の食文化にも触れることができた。

このような地域の人・物・自然から直接体験を通じて本物を学ぶことを、6年間を通じて系統的に構成することで、児童がこれからの社会を生き抜くために必要な力を高めることができた。



6年生漁協女性部による郷土料理体験

活動中の写真

デジタルデータにて2~3枚の添付をお願いします。

実施単元名 ※実施した単元の数に応じて記載してください

第1学年	きせつとともにだち（はる・なつ・あき・ふゆ）	38H
第2学年	まちが大すきたんけん隊（漁協・市場・海鮮工房）	14H
	めざせ生きものはかせ	11H
	サケ稚魚放流	2H
第3学年	羅臼の生き物を伝えよう（海以外の生き物・海の生き物・ワシ）	52H
第4学年	羅臼の漁業について調べよう（サケ・ホッケ・イカ）	31H
第5学年	羅臼の産業を探ろう（羅臼昆布学習）	39H
第6学年	自分の将来を考えよう（羅臼の良さを再発見）	49H